

事例5-1

取組名	町内公民館へのスマートロック設置及び運用		
町会名	いずみまち 和泉町1丁目町会（城東地区）	町会 データ	・人口／250人 ・世帯数／142世帯 ・高齢化率／24.0％ ・町会加入数／63世帯 ・常会数／なし ・隣組数／8組
取組概要	○ 町内公民館の鍵の貸し出しに掛かる役員及び利用者の負担軽減や利便性の向上等を図るため、町内公民館にスマートロックを設置し、運用するもの。		

背景・課題

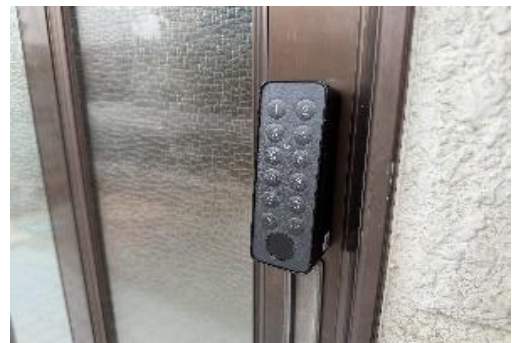
- ・ 町内公民館を利用するには、施設を管理する役員に対し、利用予約の受付と鍵の貸出しを依頼し、役員宅へ鍵を受取りに行く必要がある。また、利用後は鍵の返却も必要となる。
- ・ 上記の一連の手続きが、役員並びに利用者双方の負担となっているため、気軽に公民館を利用してもらえず、利用率の低迷や住民同志の交流の減少につながっていると考えられる。

成果・今後の展望等

- ・ スマートロックの導入により、利用予約や鍵の解錠がLINE上で完結し、直接的な鍵の貸し借りが解消されたため、役員並びに利用者の負担が軽減された。また、利用率も上昇傾向にある。
- ・ 今後、管理・運用する役員が任期等により交代した場合の対応を定めておく必要がある。

経過・取組内容

- ・ 既存の玄関戸（引戸）に電池式スマートロック機材を設置した。（写真を参照）
- ・ スマートロックの管理は、町内公民館に整備したテレビ松本の光回線を使ったWi-Fiに接続している。
- ・ スマートロックの解錠は、LINEのビジネスアカウントを利用している。
- ・ お友だち追加した利用者から利用予約を受け付けると、管理者は期限限定パスワード（6桁）を利用者に送信。利用者は受信したパスワードを入力して解錠する。
- ・ 当初は、スマートロックの設置に関して役員会での理解が得られなかった。理由は、従来の鍵が使えなくなることが心配したためだが、既存の鍵もそのまま使用できることが伝わると承認が得られた。



（玄関戸に設置されたスマートロック機器）

【ポイント】

- ▼ 町内公民館のデジタル化を進め、役員及び利用者の負担軽減と利用率向上を図る。